

# 東日本大震災支援本部ニュース

第11号 2011.4.11

支援本部広報

3月11日に発生した東日本大震災から本日で1ヶ月を経過しました。警察庁のまとめによると、11日現在で7日の余震を含め、死者13116名、行方不明者14377名。また、避難者は15万名を超えるそうです。現在も死者の身元確認や行方不明者の捜索が続けられるなかで、復興への足音も聞こえはじめています。私たち、生協ひろしまも被災地から遠く離れていますが、これからも物的・人的支援、募金に加え、復興と被災者の皆さんの手助けができるような息の長い支援を継続していきます。

## 支援募金実績(4月10日現在) 64,772,322円

### 4月10日、第7陣5名が、広島を出発しました



左から、永藤さん、上本さん、尾土井さん、  
宗本常勤(隊長)、徳永室長

3月17日から続けてきた支援も日本生協連の要請により、いったんは今回の第7陣で終了となります。第7陣は、4月16日に帰広予定です。



無店舗事業全体会で大きな布にメッセージをみんなで記入、支援隊の皆さんに託しました

### 第6陣 吉田隊長より報告が届きました

#### 【4月8日(金)】

修理中の笹谷店の店長の大橋さんによると「昨晚の地震で入荷が遅れている」、「震災当日は天井が落ちるのをまのあたりにした」、「店内にいた人は全員ケガがなく店の外に避難できた」、「数日前までは店頭販売。今は店内の入口の内側の狭いスペースに天井をはって販売している」、「近くのヨークベニマルが店内販売を再開してから供給が半減している」とのことでした。

福島市内は津波の被害もなく、パツと見ると普通です。でも、よく見るとブルーシートの屋根があったり、建物内部の壁が落ちていたりして、地震のあとが続いています。また、宿舎で「相馬から避難してきている人が別の階にいる」などという話を聞いたり、40畳の大部屋に40人くらいで入っていると被災地に来るとの実感ができます。

テレビの前で観ているのとは違う、という到着日の感想です。

#### 【4月9日(土)】

大久保・波多ペアは相馬から新地、南相馬、仙台空港と被災地を見て回りました。テレビで観るのはちがう、言葉にならない。何ができるか…答が見つからない。

藤井・吉田ペアはコープマートやのめ店の応援。一昨日の地震で入荷が遅れたドライ商品の品だし。欠品も多く空き棚もまだまだ多かったです。一昨日の地震で食パン製造できず、ヨーグルトや、CO・OPの冷凍食品、100円菓子なども物流センターが被害を受けていて欠品が続いています。店長はじめ定職さんもとても親切で、丁寧に対応してくださいました。こちらがありがとうございました。

宿舎に帰ってからは、南相馬～仙台の話に終始。感じるもの、心に受けるもの多くあれど、それをどうしたら、どう伝えたら、となると表現できないのです。また来よう！ また来たい！ 来ないといけない！ 気持ちです。

#### 【4月10日(日)】

大久保・波多ペアは午前中コープマートやのめ店へ。昼からは店舗組合員への電話かけを行いました。店内は人もいて、オペレーションは問題なしでした。

藤井・吉田ペアは海沿いの被災地を回らせていただきました。萱浜、松川浦地区で衝撃を受けました。家財道具や人形など、「人の暮らし」の証があちこちに。列車などのモノよりも、生活の匂いがするものの方が悲しい気持ちにさせられる。一面がれきりのみの光景を見ると、以前はどんな光景だったのか想像ができません。相馬の方が「風景も地形も変わった、もうここに住みたくないという人が多い」と言われたのも印象に残っています。

その後、名取体育館にボランティアセンターを訪ねました。若い人がたくさん作業されていました。手持ちの少しばかりの水と非常食の提供を申し出ると、快く受け取っていただいた。少し嬉しい気持ちになりました。